

最新

特集3



# ページプリンターの選び方

コストを抑えつつ、仕事の効率を上げる

オフィスで毎日使うページプリンター。大事な書類を何百枚と印刷する機器だけに、その機能・性能がビジネスの効率を左右する。だからこそ、製品選びは重要だ。印刷できるのはA4用紙まででいいのか、A3対応が必要なのか、印刷速度は十分なのか、といった基本的な点だけでなく、導入費用にランニングコスト、耐久性や使い勝手と、見るべきポイントは多岐にわたる。ここではページプリンターを選ぶためのノウハウと、最新製品を紹介しよう。(岡村 秀昭=フリーランスライター)



オフィス向けのページプリンターは例年、年度末に予算消化を狙った値引き合戦が繰り返される。新モデルもこの時期までに登場することが多く、製品購入には良い時期だ。

最新モデルでは環境性能や対応可能な用紙の種類を増やすといった点に力を入れたメーカーが多い(図1)。特に、待機電力の抑制など環境性能の向上は、導入による企業のイメージアップだけでなくランニングコスト

## 最新製品のトレンド

- 速度の向上はひとまず一段落
- 待機電力などの環境性能が向上
- 印刷可能用紙の対応力強化
- ネットで使用状況を管理する仕組みが進む
- セキュリティ機能も徐々に普及

図1 ページプリンターのトレンドをまとめた。低消費電力化や使い勝手の向上が進んでいる

にも直結するため注目だ。

また、ネットワークを通じて稼働状況を集中管理したり、消耗品を注文したりできる仕組みも広がっている。IC社員証を触れることで印刷を開始するといったセキュリティ機能も、徐々に動き出している。製品を検討する際にはこういったソリューション面にも目を向けてみたい。

主力はA3対応機と考えがちだが、実はオフィス文書のほとんどがA4判モノクロ。実際、本体のコンパクトなA4機にも魅力的な新モデルが登場している。用途に応じてチェックしてみよう。

## 価格性能比の向上は続く

進歩の速いIT機器の中で、オフィスプリンターは買い替え需要がメインの成熟商品。現在はモデルチェンジごとに速度性能が大きく向上し

ているというわけではないが、価格性能比の向上は着実に進んでいる(図2)。本体価格は安く抑え、トナーなどの消耗品で投資を回収するというビジネスモデルであるため、エントリーモデルをはじめとして驚くほど安くなっている。多くのモデルは、オフィスで不可欠なネットワーク接続機能も標準搭載している。

ただし、印刷枚数が多い場合は注意が必要だ。安い低速モデルでは印刷待ち時間が長くなるほか、耐久枚数の少ない機種に過大な負荷をかけ続けると故障しやすい。また、低価格モデルは1枚当たりの印刷コストが高めになる場合が多く、長期間使うとかえってコスト面で不利になることがある。月間印刷枚数をしっかり見積もってトータルコストの安いモデルを選びたい。

チラシなどを大量印刷するなら、

合計給紙容量にも注目しよう。容量が少ないと、退社時に印刷を始めて翌朝までに仕上げさせておくといった使い方が難しい。また、給紙カセットが1段の機種は、ほかのサイズ用紙で印刷する際、給紙トレイを広げて使うことになって、その分通常よりも広い設置スペースが必要になる。製品比較の際は、使用状況を考えてさまざまな角度からよくチェックしよう(図3)。

ただし、細かい使い勝手などはスペック表に表れてこない部分も多い。例えば最近では、給紙カセットにローラーを付けて軽い力で引き出せるようにした機種があるが、快適に使えるだけでなく、カセットを閉じる際の振動が減ることで故障が減る効果もあるという。こういった点は、可能ならばショールームなどで実機を確認してみるとよいだろう。

厳しい経営環境が続き、リース期間満了後のプリンターを安く再リースするケースもある。しかし、最近の製品を数年前の同等価格の製品と比べるとコストパフォーマンスは大きく向上している(図4)。例えば、カラー1枚のコストが2.5円違う機種で1日平均50枚のカラー印刷を続けた場合、年間営業日260日として年に3万円以上の差が出る。消費電力は3年前の機種との比較例だが、1kWhの電気代を22円、年間50週として試算すると電気代だけで年に約6000円安くなる。古い機種は故障も増え、速度性能や使い勝手は業務効率にも影響するので、トータルで考えると新モデルの方が有利になる場合が多そうだ。

速度性能を見るときには、スペッ

## ページプリンター基本モデルの印刷速度と実勢価格

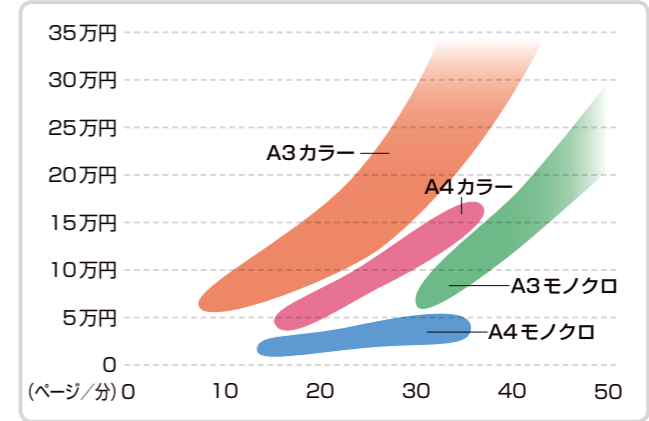


図2 印刷が高速になればなるほど値段も上がる。ただ、A4モノクロ機であれば高くても5万円程度で手に入る。A3モノクロ機は低速機は既になく、30ページ/分程度の機種が10万円を切る。A3カラー機は、ほかと比べると低速でも値段は高めだ

## 製品を見極めるポイントはココ!

<p><b>速度/耐久性はどうか?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 印刷負荷に見合った速度や耐久性の製品を選ぶ</li> <li>● 連続印刷が多いか、間欠的な印刷が多いかで適切な速度指標を見る</li> </ul>	<p><b>コストは?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 総コストは本体価格よりランニングコストを重視</li> <li>● 用紙コストを抑えるには両面印刷機能付きを選ぶ</li> </ul>
<p><b>使い勝手は?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● チラシなどの内製化なら連続給紙枚数を確認</li> <li>● さまざまな用紙を使う場合は用紙対応を確認</li> </ul>	<p><b>環境性能は?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 消費電力量の節約ならTEC値をチェック</li> <li>● 環境に配慮した素材や設計でCO2排出量を削減しているかチェック</li> </ul>

図3 製品選びのポイントは複数ある。速度や耐久性のほか、コストや使い勝手もチェックして、最適な1台を選ぶ

## 5年前のモデルに比べ、性能は大幅に向上

<p><b>スピード</b> 印刷速度、ウォームアップ時間</p>		<p><b>消費電力</b> TEC値</p>
<p><b>コスト</b> ランニングコストの低減</p>		<p><b>使い勝手</b> 本体サイズ、メンテナンス性</p>

	2003~2004年の機種	2008~2009年の機種
A3カラーの速度(本体18万円)	12ppm	30ppm
A3モノクロの速度(本体10万円)	20ppm	35ppm
ウォームアップ時間	約40秒~2分	約15秒~1分
カラー1枚のコスト	14.5円	12円
本体サイズ	特にタンデム方式は横幅があった	よりコンパクトになった
メンテナンス性	カバーが横開きで作業しにくい場合もあった。部品交換で保守要員を呼ぶことが多かった	カバーの前開きや大開きでより作業しやすく。ユーザー自身で簡単に交換できる部品が増加
消費電力(TEC値)	約7.9kWh(2005年)	約2.5kWh(2008年)

図4 約5年前に登場した製品と比べ、最新のページプリンターは速度面、コスト面だけでなく、使い勝手や環境性能の面でも大きな進化を遂げている(表は一般的な例)